

2025
10



特別展「リビング・モダニティ 住まいの実験 1920s-1970s」関連
こどものイベント

「たてものタイムリープ！世界の有名なおうちと未来のおうち」

■開催日時：2025年10月19日(日) 10:30～12:30

■概要

■参加者：こども13名、保護者15名

■対象：小学3年生～中学生

■場所：企画展示室、アトリエ2

展覧会の中から4つの住宅に注目し、ワークシートを使用しながら鑑賞。その後、30年後のおうちを自由に発想しながら、その間取りを考えました。

■オリエンテーション、鑑賞の導入

活動のはじめに、リビング・モダニティ展を担当した林学芸員から展示されている住宅の紹介がありました。「ル・コルビュジエ《ヴィラ・ル・タク》は両親のために建てられたおうちです。この頃、鉄を使って建物を支えるという技術が進歩したこと、大きな窓をつくることができました」林学芸員は、他にも、京都にある木造住宅《聴竹居》やガラスの壁に取り囲まれた《メゾン・ド・ヴェール》などをスライドで見せてくれました。お話を聞いて、いま私たちが住んでいる"快適なおうち"は、実は比較的新しいものであり、それまでは建築家たちが工夫を重ね、新しい技術や材料が生まれるたびに建物に取り入れ、「実験」を重ねてきたのだとわかりました。



林学芸員の説明

△参加者の感想（※原文をそのまま紹介）

- ・ ウィグルサイドチェアがだんボールで、できているのがおもしろかった。すわったらどんなかんじか気になりました。（小4）
- ・ となりのビルがいまけんせつの中で、いつも見ているので、もっとくわしくしれるようになりたいと思った。（小4）

- ・ 子どもと一緒に作品を見て、どんな家がいいかななど話ができる楽しかったです。（保護者）
- ・ 展示を見た後に、アウトプットを通して考える。考えたことを伝える時間があり、よい学びの時間になりました。（保護者）

■鑑賞活動

今回、展示されている14の住宅の中から、住宅模型などが出品されているものを中心に4つを取り上げ、ワークシートを作成して、こどもたちに配布しました。展示室では、原寸大の窓や、住宅で使用されていた椅子が展示されており、こどもたちは興味津々。スケッチをしたり、しゃがんで椅子の細部を観察したりする姿も見られました。また、本物の住宅をそっくりに再現した住宅模型もあり、左側から右側からと、角度を変えながらおうちの外観や内部の様子を熱心に見ていました。「おうちも大きいけれど、お庭も広いね」「こんな坂のところに、おうちを建てるなんてすごい」といった声もあり、模型を通して建物のまわりの環境まで理解を深めている様子が見られました。



展示室での様子



こどもたちのワークシート

■未来のおうちを考える

鑑賞の後には、アトリエに移動して「30年後のおうち」をテーマに考えました。こどもたちが大人になったころ、どこで、どんな暮らしをしているのだろう。「もっと便利になっているかも」「新しい技術や材料があるかもしれない」と、未来の暮らしについて話しながら、「おうちの条件」を考え、それを絵に描きました。

こどもたちからは「天井まで窓にして、明るい家にしたい」「遠くに住んでいる友達とすぐに会えるドアをつける」「仲良しの友達が全員泊まれるように、たくさんのベッドが置ける大きな部屋が必要」など、想像豊かなアイデアがたくさん出てきました。なかには、「お片付けを全部自動してくれるロボット！」という夢のような案もありました！



発表の様子

■意見交換、ふりかえり

活動の最後に、こどもたちが取り組んだ「30年後のおうち」について、全員で発表を行いました。こどもたちの未来のおうち案には便利な機能や新しい技術だけではなく、「家族、親友」「本やゲーム」「ボーリング場」「大きなお風呂」「剣道場」など、それぞれが今夢中になっているもの、大好きなものが詰っていました。ル・コルビュジエが両親のために快適で美しいおうちをつくったように、家族や友人とのつながり、安心して過ごせる空間など、こどもたちの想いや価値観が表現されました。また大人になったときに、このワークシートを開き、今日の活動を思い出してもえたら嬉しいです。（小田美沙紀/エデュケーター）

□担当学芸員からのコメント

リビング・モダニティ展では、現在のわたしたちの暮らしや住まいのルーツとなった20世紀の住宅建築を紹介しています。こどもたちには、まず窓やキッチンといった家の中の設備から、鉄やガラス、木などの家づくりの素材について、そして、家が建つ場所やその土地の気候、あるいはそこに住む人について、本展で取り上げる住宅の実践を手がかりに、未来の住まいの形を考えもらいました。30年後という“ちょっと先”的な未来を想像することで、SF的な空想にとどまらず、そこに暮らす自分や家族、友達の姿を思い描きながら、快適に過ごすための工夫を主体的に考えてもらえたように思います。（林学芸員）